

学校法人 大阪医科薬科大学



大阪医科大学

Osaka Medical College

来年創立90周年を迎える大阪医科大学。医学部ではこれまで約9,000人も医師が輩出した。看護学部とともに「医看融合教育」を推進するいま、教育・研究の大胆な改革に着手し、世界有数の医療系総合大学を目指す。

大 阪医科大学は1927（昭和2）年、5年制の高等医学専門学校として誕生しました。昭和の大恐慌で多くの国民が中国やブラジルへ移住した時代、国内外の医師不足解消を目的に民間の力で設立した学校です。建学の精神「内誠仁術」は医療による社会貢献であり、大阪医大病院が市民とともに歩んできた歴史として形となり、教職員や学生に受け継がれています。

昨年の学長就任時、五つの教学改革方針を打ち出しました。「Innovation：今行うべき改革」では、来年度から医学部に臨床実習の増加や学生研究を組み込んだ新カリキュラムを導入。3～4年次生の一定期間、授業をほぼフリーにして研究に専念してもらい、学生全員に「リサーチマインド」を植え付けます。そのためにも初年次教育では、実験ノートをつける習慣や統計学の知識、英語プレゼン能力を養う総合教育を推進し、高校卒業から1年次生のスムーズで有機的な「高大接続」を実施します。また留学や共同研究を活性化する「Globalization：教育研究のグローバル化」にも、中山国際医学医療交流センターを中心に注力します。

大槻 勝紀学長



最高の出会い

「Translational Research：研究拠点の形成」では、各教室の垣根を越えた融合的な研究拠点の形成を行います。同時に、優れた医療人を絶えず社会に送り出し「Social Contribution：社会貢献活動と社会責任」も果たします。そして「Open Mind：情報の発信と共有化」で、教員、職員、学生すべてが情報を共有できる環境を構築します。

本学は、医学部と看護学部、大阪医大病院が同じキャンパス内に位置することを生かし、両学部合同の講義や実習を行う「医看融合教育」に取り組んできました。超高齢化社会では、医師と看護師の他、薬剤師、栄養士や臨床工学士などとの多職種連携がますます求められます。患者様中心のチーム医療の担い手を育成するうえで、今年4月の大阪薬科大学との法人合併は意義あることです。この「最高の出会い」を、目標とする「世界有数の医療系総合大学」への追い風とし、社会に貢献できる医療人をこれからも育成します。

Education

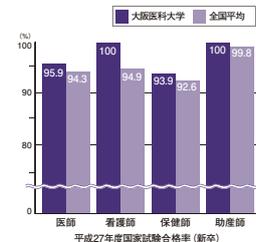
国家試験の高い合格率の維持
地域医療を通じた社会貢献も

良 医の育成を掲げる大阪医科大学医学部。その大前提である医師国家試験合格のため、さまざまな対策を実施してきた。その効果は如実に表れ、平成27年度の新卒合格率は、95.9%^{※1}と全国平均（94.3%）を上回った。大槻学長は「決して予備校化せず、高い志を持ち他者を思いやる医師や研究者を育てたい。そのために高い合格率を維持、向上しなければなりません」と意気込む。

今年度からは、5・6年次生の成績上位者以外の学生に、国試対策のプログラムの講義を必須に。「受験勉強のペースメーカーをつけることで、効率的な自学自習を



5・6年次で行う臨床研修



促します。また早くから学習の習慣を身につけることが医師国家試験合格への早道と考え、昨年度から1・2年次生全員にiPadを配布。アクティブ・ラーニング（学生が主体的に課題に取り組む学び方）や予習復習に活用する。「医学の進化もあり、私の医学部時代の知識量を100とすると、今の学生は130以上が必要。医学だけでは間に合いません」。同時に看護学部も国家試験対策を充実。平成27年度の合格率は看護師100%、助産師100%、保健師93.9%だ。^{※2}

こうした教育を支える施設の一つが、学生の意見をもとに作られた新講義実習棟。防音を備えた自習室、大型コッパールーム、シャワールーム、医学部専門書店などを備える。「あらゆる大学を見ましたが、学生のための設備として日本有数のものを準備できました」と大槻学長は自負する。

一方で、地域医療の実践教育にも注力する。今年8月には、高知県の協力を得て、本山町の町立国保保北中央病院を中心に、医・看護学部生、大阪薬科大学の薬学部生との合同で地域医療実習を行う予定だ。「現場で医・看・薬の異なる立場を知り、チーム医療の重要性を考える機会を知ります」。

兵庫県と高知県のへき地への医師派遣事業にも積極的。診療所や在宅医療を経験した若手医師は、大阪医大病院では得がたい経験をするといい。「患者さんと向き合い診る大切さに改めて気づくでしょう。また行きたいと希望する医師は多いですね」。大学が所在する高槻市は20～30年後、これらの地域と同様に超高齢化を迎えると予想される。「本学が今から地域医療に取り組むことは、将来高槻市で活躍できる総合診療医の養成にも役立ちます」と大槻学長。社会貢献できる医療人の教育や派遣は、まさに建学の精神そのものだ。

※1 医師 95.9%
※2 看護師 / 受験者数85人に対して合格者85人
助産師 / 受験者数8人に対して合格者8人
保健師 / 受験者数49人に対して合格者46人

Research

高度な研究を創出しつつ
次世代のがん治療拠点を設立

研 究でも多彩な実績を持つ医学部。最近の話題の一つが、小説「下町ロケット2 ガウディ計画」でも取り上げられた、子どもの心臓手術に用いる「心臓修復パッチ」の開発だ。体内組織に吸収される糸を組み合わせた新タイプで、心臓の成長に対応でき、経年により劣化しにくいなどの利点がある。大阪医大病院の小児心臓血管外科・根本慎太郎専任教授と企業2社による共同研究プロジェクトで、平成26年度の経済産業省「医工連携事業化推進事業」に採択された。現在、商品化に向けての研究に拍車をかける。

「心臓修復パッチの研究をはじめ、公的外部研究資金の獲得が大学力につながります」と大槻学長。他の大学などと競争し、厳しい審査をクリアして得た公的資金は、その大学の研究レベルを示す指標の一つだ。医学部の科研費は、昨年度と今年度で新規採択件数が33件から57件に、採択率は18.4%から21.3%上がった。「教員の研究意欲が高まり、本来の力が現れ始めたのでしょう」。今年度学内公募により五つの研究拠点を形成し、全学的な視点から臨床と基礎、他大学や企業との連携も含め、新たな研究拠点の創出を図る。

看護学部でも同様に研究拠点を構築。「食事や運動など生活習慣から病気を予防するも看護師の役割。医学部と組み、本学ならではの看護学の研究成果を出していきます」と大槻学長は意欲をみせる。

キャンパスでは、世界に先駆けた医療拠点を建設する。次世代の有力ながん治療法とされる「BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）の実用化に向けた、世界初の共同利用型のBNCT専門医療拠点（仮称：関西BNCT医療研究センター）だ。京都大学原子炉実験所、大阪大学、大阪府立大学と関西のBNCT研究のネットワークと連携し、大阪・関西がこの研究、医療で世界をリードするのがねらい。「BNCTはすでに治療が始まっていますが、脳腫瘍や頭頸部がん、肺がん、乳がんなどの一部に効く可能性があり、副作用がほとんどなく治療時間も短い。将来、有望ながん治療のひとつになり得ます」。同拠点は2018年に竣工、19年の開院を予定する。「本学は京都、神戸、奈良に近く、国内の患者さんともより、ツーリズムと絡めて世界の患者さんにも来ていただければ」と大槻学長は考える。

地域医療から最先端医療まで、深く探求し広く発信する大阪医科大学。その根底には自由な学風が息づく。「自由な発想で勉強できる大学です。卒業後も生産でき続けなければなりません。それがわかると一流の医療人に育てたいですね」



2次元コードでQRコードを読み取り、ウェブサイトへアクセスできます！



さまざまな留学体験から 将来の医師像をイメージ



医学部 6年次生 末方 由さん

高校で「国境なき医師団」を知り、やりがいのある仕事にそこが入学。ESS部の先輩から「多彩な視点で医療を見られる留学は、自分を試せる」と聞き、今年3月から1カ月間、イギリスのクインズリザバス大学病院の救急科へ。あらゆる症状に対応し、治療から退院後までフォローする先生のそばで、教科書ではわからない診察の大変さを実感しました。その後のハワイ大学研修では、最新の論文データに基づき治療を考慮する先生の姿から、医師の心構えを学びました。これらの留学の学びをもつて挑めたのは、大学の臨床研修が他大学より早めで、5年次生で全科を回り終えていたから。将来は、同じ気分で、患者さんごとに治療のプランやゴールを考えられる医師になりたいです。

医学部や病院併設で大きく成長 将来はがん専門看護師に



大阪医科大学病院・泌尿器科病棟勤務 岩崎良太さん（2015年看護学部卒業）

子どもの頃、祖父の死に立ち会った際、家族に寄り添ってくださった看護師を見て、この仕事に興味をもちました。高槻市出身で大阪医大病院に親しみがあり、医学部併設にも魅力を感じて看護学部へ進学。両学部合同の授業や活動。また大阪医大病院の実習で多彩な医療スタッフや患者さんと関わるなか、コミュニケーション力や視野の広がりが身に付きました。実習や国家試験を仲間と励まし合い乗り越えたのも思い出です。看護師になった今、学部の学びとともに、課外活動のライフサポートクラブで養った救命救急のノウハウが役立っています。勤務する泌尿器科ではがん患者さんと接することも多く、将来はがん専門看護師の資格取得を目指します。

2016年春、日本最高水準の医療・教育・研究環境の実現のため、学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学は法人合併しました。今後は、大学統合をめざします。
<http://www.omp.ac.jp/>

大阪医科大学 医学部/看護学部
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
<http://www.osaka-med.ac.jp/>

オープンキャンパス	7月17日(日) 8月6日(土)
	8月7日(日) ※看護学部のみ

大阪薬科大学 薬学部
〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1
<http://www.oups.ac.jp/>

オープンキャンパス	7月30日(土) 7月31日(日)
	8月21日(日) 10月1日(土)

高槻中学校・高等学校
〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町2-5
<http://www.takatsuki.ed.jp/>

入試説明会	10月15日(土)
	11月12日(土)